

ASAHI RUBBER REPORT

■朝日ラバー株主通信2013 平成24年4月1日 - 平成25年3月31日

新たな体制のもと、さらなる飛躍に向けて挑戦してまいります。



代表取締役社長 伊藤 潤

株主の皆様には平素より、当社事業に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび2013年6月25日開催の定時株主総会後の取締役会におきまして、前社長 横山林吉の後任として、私、伊藤潤が代表取締役社長に選任され就任いたしました。就任にあたり、株主の皆様方へ謹んでご挨拶を申し上げます。

■代表取締役社長 略歴

- 1996年 4月 当社入社
- 2002年 6月 取締役営業本部長兼総合企画室長就任
- 2003年 6月 常務取締役営業本部長兼総合企画室長就任
- 2007年 6月 専務取締役営業担当兼経営企画室長就任
- 2009年 6月 代表取締役副社長開発本部長就任
- 2010年 4月 代表取締役副社長営業・技術担当
- 2012年 4月 代表取締役副社長技術担当

朝日ラバーの製品・技術は、直接あるいは製品の一部という間接的な形で、快適さや利便性、健康、安全、地球環境負荷の低減などに貢献し、豊かで持続可能な社会の実現に寄与しています。新社長としての私の使命は、このような朝日ラバーの社会に対する価値提供を、社訓に掲げる「特徴ある企業」として、さらに高めていくことにあります。

世界経済が不透明な状況は依然として続いている一方で、日本経済は今、大きな転換期を迎えています。リーマンショック以降の厳しい市場環境の中、日本企業はともすれば近視眼的な思考に傾きがち側面もあったように感じています。しかしながら現在、社会や市場が急速に変化していく渦中であって、変化に応じた価値を社会に提供し持続的に成長していくためには、長期的な視点に立って将来を展望する力が問われます。選択と集中をもって既存製品の生産効率を高め、事業ポートフォリオの最適化を図るとともに、未来の事業への種をまき、育てていきます。

「事業・企業体質・人材のバランスの取れた成長」を基本戦略とする、当社の「第10次三カ年中期経営計画（2011年度～2013年度）」は、現在最終年度を迎えています。これまでの2年間の歩みを止めることなく、次年度からの「新三カ年中期経営計画」の始動を見据えて、この1年間で経営基盤のさらなる強化を図り、今後の成長戦略の土台を築いていきます。

その第1歩として、2013年4月に組織変更を行いました。各部門が全員の力を結集してより効果的かつ効率的に戦略を実行し、多様化するお客様のニーズに対応しつつ、優れた成長性と収益性を実現することを目指しています。

新体制のもと、朝日ラバーはさらなる飛躍に向けて、全社一丸となって挑戦を続けます。私は総責任者としてその先頭に立ち、舵取りを担ってまいります。株主の皆様におかれましては、当社の成長にご期待いただき、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「お客様視点」と「独自性」で 社会に必要とされる企業集団へ

■朝日ラバーグループの事業報告と今後について、伊藤潤 新社長にお話を聞きました。

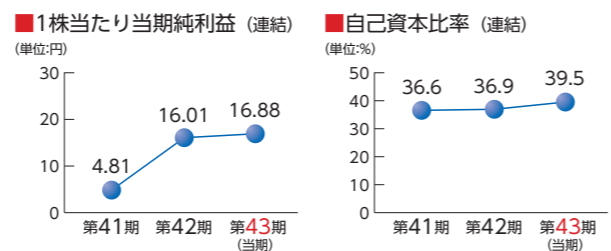
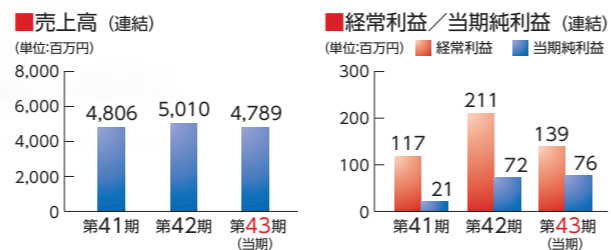


2012年度（第43期）の総括をお願いします。

工業用ゴム事業は、「ASA COLOR LED」をはじめとする自動車関連製品の販売が堅調に推移した一方で、卓球ラケット用ラバーの受注は伸び悩みました。医療・衛生用ゴム事業は、新規開発製品の受注は好調に推移したものの、既存主力製品は顧客の在庫調整などの影響を受け、厳しい環境となりました。

残念ながら中期経営計画の達成は厳しい状況にあります。引き続きコスト削減に取り組むとともに、当社の技術力を活かして特殊な技術対応が求められる分野への展開も強化します。また2013年度は、ライフサイエンス分野の新製品として、マイクロ流体チップを開発しました。今後新製品の開発と市場投入に注力し、マイクロTAS (Total Analysis System) 事業を次世代の収益の柱の一つとして育てていきます。

■スポーツ用ゴム製品と医療用ゴム製品の受注が低下し、売上高と利益が減少しました。



第44期連結業績予想

売上高	▶ 5,300 百万円 (当期比 10.7%増) ↑
営業利益	▶ 250 百万円 (当期比 84.5%増) ↑
経常利益	▶ 195 百万円 (当期比 39.8%増) ↑
当期純利益	▶ 110 百万円 (当期比 43.3%増) ↑

2013年4月に実施された組織改編について、その狙いはどのようなところにあるのでしょうか。

この一年間で基盤を整備し、次の中期経営計画のスタートに向けて足腰を鍛えていきます。



当社の事業基盤は5つです。第1は顧客基盤です。営業組織を製品別グループ制から拠点別に編成し、国内外のお客様に対する地域密着型営業を目指します。第2はものづくり基盤です。国内外の生産性を高め、低コスト体質へと体質改善を図っていきます。その一環として、購買グループを生産本部内に設置し、生産計画と連動した購買を行います。第3は研究開発基盤です。新規事業開発部を新設し、部門横断的な社内インキュベーション組織として機能させます。第4は品質基盤です。当社はこれまで高い品質と付加価値でご評価をいただきましたが、引き続きグローバル品質の維持・向上に努めます。第5は人事基盤です。部門間の人材の流動化を図ることで組織全体のシナジーを生むことを狙います。

朝日ラバーを取り巻く事業環境をふまえて、新社長として、今後どのような舵取りを行っていかうとお考えでしょうか。

照明関連事業では、LEDの製造コストが下がり、コストと性能の両立が求められるようになってきている中、お客様のニーズに応えることに注力しています。今後のキーワードは「複合化」だと考えます。当社の強みである様々な技術を組み合わせることで機能面の付加価値を向上させ、欧米の自動車産業への参入や特殊照明分野の売上拡大を目指します。

医療関連事業においても、たとえば使用する医薬品に

よって素材の配合を変えるなど、より高度な品質が求められています。当社の技術力を活かして、引き続きシェア拡大を狙います。

機能製品関連事業については、2013年度中にマイクロTAS事業でDNA解析市場に参入しますが、当社のマイクロ流体チップは医療やバイオの様々な分野での応用が期待できます。今後マーケティングにも力を入れて展開を図ります。

地域的な戦略としては、基本開発は日本を基軸に行い、応用開発および販売については、各国地域のニーズに合った海外展開を行っていきたくて考えています。そのためには、優秀なグローバル人材の確保・育成など、長期的な人事戦略も今後の検討課題と認識しています。

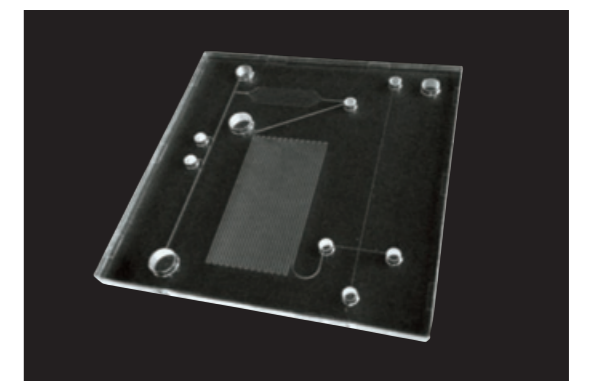
朝日ラバーの原点は、「お客様視点」と「独自性」にあります。お客様視点では社会のニーズに当社の独自技術でお応えすることで成長機会を捉える姿勢は今後も変わりません。社会に必要とされるものづくり集団として、進取果敢に挑戦を続けます。



Topics | 新製品のご紹介 | 新しい技術を活かした新製品を開発しました。

マイクロ流体チップとは、基板に微細な幅と深さの流路を形成し、様々な化学的検体を流して試薬との反応や分析を行うチップで、化学・生化学分野において研究機関や実用現場で使用されています。当社には、接着させる物質の表面を加工して、化学反応により貼り合わせるという独自の分子接着技術と、ゴムと樹脂の加工技術があります。これらを組み合わせることで、接着剤を用いずに、ユーザーのニーズに応える機能を持つマイクロ流体チップを開発しました。

マイクロ流体チップは、今後、医療、生物、化学、ICT、海洋、環境、農業など様々な分野での応用が期待されています。当社は経営資源を投入して、この製品を中心にマイクロTAS事業として事業化を目指します。



●マイクロ流体チップ

●非常時の安否確認システムを導入しました

災害時の従業員の安否を速やかに確認し、迅速な復旧と円滑な事業継続を図るため、安否確認システムを導入しました。

東日本大震災では、携帯電話やメールはアクセスの集中でつながりにくくなりましたが、インターネットを使ったデータ通信は、スムーズに連絡を取ることができました。今回導入したシステムでは、災害発生時、携帯電話・パソコン・スマートフォンでインターネットに接続し安否を登録し、また、確認リストから情報を確認します。

災害に強い企業を目指し、BCM（事業継続マネジメント）体制づくりを進めています。

登録

Stock Information/Corporate Profile

株式の状況／会社概要

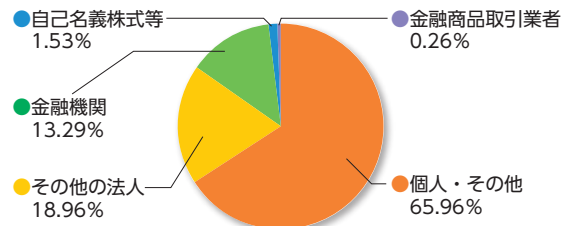
(平成25年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 11,500,000株
- 発行済株式の総数 4,618,520株
- 株主数 1,071名
- 大株主

株主名	持株数	持株比率
有限会社伊藤コーポレーション	715,500株	15.73%
伊藤潤	227,000	4.99%
伊藤巖	222,528	4.89%
朝日ラバー共栄持株会	176,000	3.87%
朝日ラバー従業員持株会	174,528	3.84%

(注) 持株比率は自己株式(70,584株)を控除して計算しております。

●所有者別株式の分布状況



所有株式数 4,618,520株

- 商号 株式会社朝日ラバー (ASAHI RUBBER INC.)
<http://www.asahi-rubber.co.jp/>
- 所在地 埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
- 設立 昭和51年6月(創業 昭和45年5月)
- 資本金 5億1,687万円
- 証券コード 5162
- 正社員数 247名
- 主な業務内容 工業用ゴム製品の製造・販売
- 主な事業所
本社 埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
大阪営業所/福島工場/第二福島工場/白河工場
- 関係会社 ARI INTERNATIONAL CORPORATION
株式会社朝日FR研究所
朝日橡膠(香港)有限公司
東莞朝日精密橡膠制品有限公司
朝日科技(上海)有限公司

- 役員
(平成25年6月25日現在)
- 取締役相談役 伊藤 巖
- 取締役会長 横山 林吉
- 代表取締役社長 伊藤 潤
- 常務取締役 中沢 章二
- 取締役 亀本 順志
- 取締役 渡辺 陽一郎
- 常勤監査役(社外) 鈴木 敦
- 監査役(社外) 塙 雅夫
- 監査役(社外) 野村 智夫

●株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月に開催
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 (JASDAQ市場)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asahi-rubber.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

もっと朝日ラバーを知る

WEBで

積極的な情報開示に努めてまいりますので、ぜひご覧ください。



<http://www.asahi-rubber.co.jp/>

Twitterで

会社の最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください。

<http://twitter.com/AsahiRubber>